



公募テーマ：

「産業構造審議会 教育イノベーション小委員会
「中間とりまとめ」の論点の社会実装」に関するテーマ

探究コーディネーターと探究学習のコーチ役、進路指導 支援を統合的に担う『コーディネーター・コーチ・校務を 統合的に支援するスペシャリスト派遣』事業

最終成果報告書

株式会社ミエタ

担当者情報

- 所属・役職：コーポレート部門 マネージャー
- 氏名(フリガナ)：原 勇人 (ハラユウト)
- メールアドレス：yuto.hara@mietaplus.com
- 電話番号：050-5052-1611

2024年2月22日

実証事業サマリ：探究コーディネーターと探究学習のコーチ役、進路指導支援を統合的に担う『コーディネーター・コーチ・校務を統合的に支援するスペシャリスト派遣』事業（株式会社ミエタ）

実証の背景と成果

背景 学校側がノウハウがなく、外部人材活用が進まない状況を踏まえ、外部人材が、学校教育や教職員の業務を理解した上で、進路指導等校務といった教職員の中核業務の一端を担うことを目指す



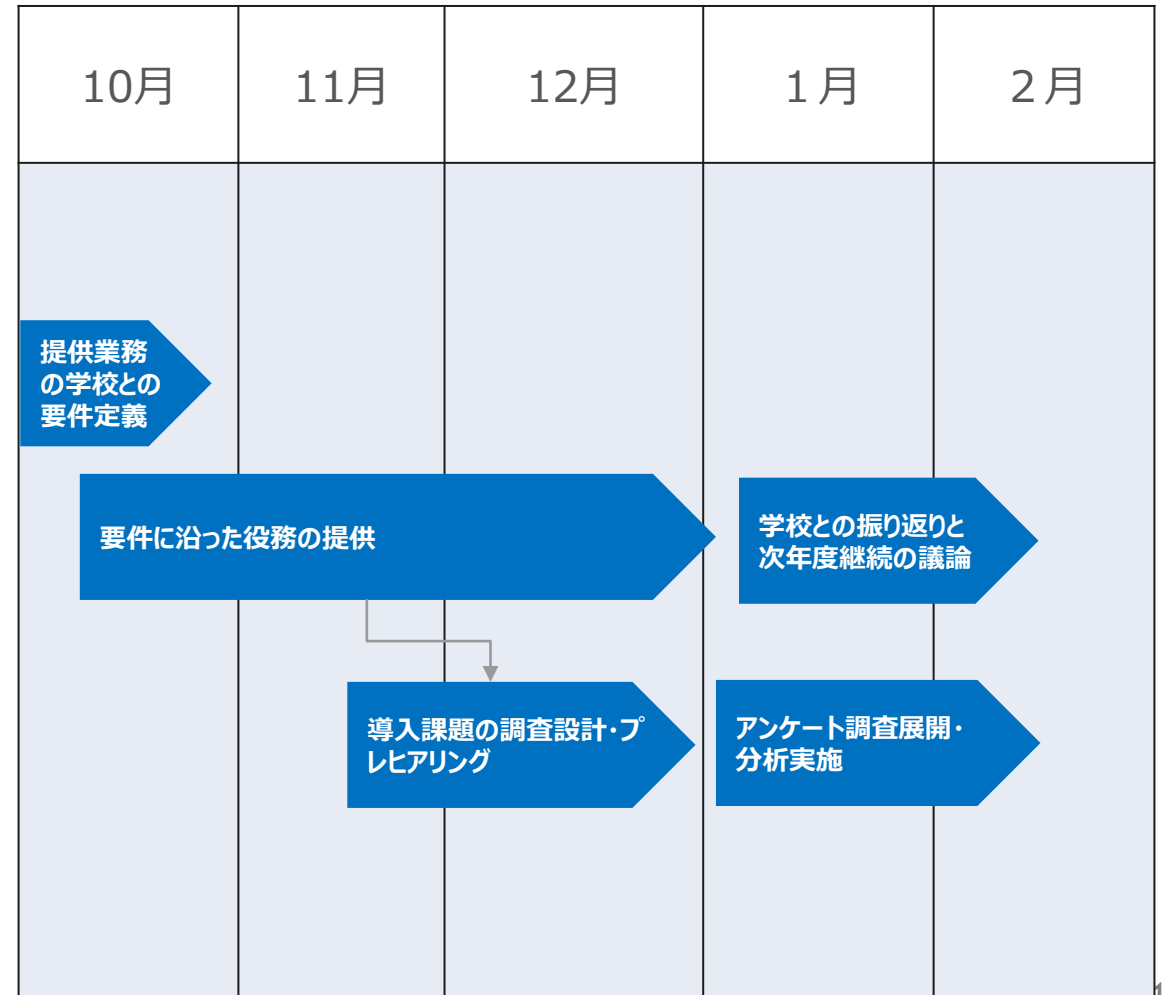
成果 ①アーリーアダプターにおける外部人材活用の障害・対応策の案取りまとめ

- 外部人材活用の障害は心理的要因・経済的要因・組織的要因に整理可能
 - 最大の障害は心理的要因
- 担当教員の不安感を払しょくするには導入における工数の可視化と、費用対効果と成果イメージを、事例集などの積み上げと共有によって鮮明化していく必要がある

②実証校での来年度以降の事業提案書作成

- 今年度大阪国際では探究学習プログラム改定業務、水海道では進路指導業務を提供
- 探究学習プログラム改定業務を通じてカリキュラムを、進路指導業務を通じて外部/内部人材の役務分担表を作成
- 来年度は大阪国際には具体的な探究プログラムを、水海道では進路指導役務の範囲を広げて提供

実証内容



最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

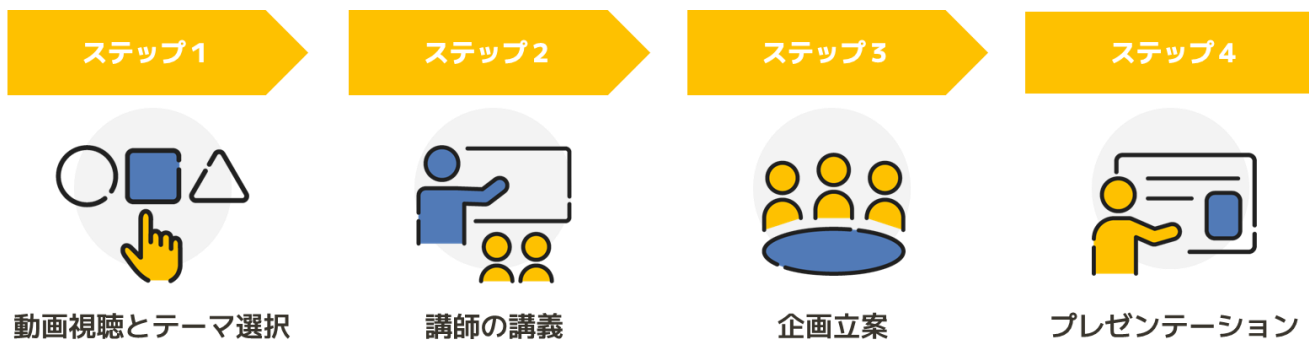
Appendix

1. 事業者

既存コア事業：探究学習プログラムMIETAN

MIETAN

探究学習に関する課題に対してミエタの独自のネットワークとコンテンツ開発により「人材」＋「教材」をワンパッケージにしたサービスをご提供しています。



「未来の教室」にて実施した新規実証事業

進路指導・大学入試対策支援

- 1 総合型/学校推薦型選抜入試に向けた学年全体もしくは希望者を対象とした大学入試対策指導を行うとともに、学生生活で得た学びを大学入試に繋げるための3/6カ年にわたる体系だった進路指導カリキュラムの策定および各学年に対する進路指導サポートを行います。

カリキュラム改定支援・探究コーディネーター

- 2 御校ならではの特色教育を形作るため、総合学習/探究科目をはじめ各教科における探究学習の計画/改定を行うとともに、授業運営サポートを行います。また探究学習を通じて得た生徒の学びをさらに深めるための発展的な指導を行います。

最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

2. 背景と目指す姿

本事業で取上げる中間とりまとめ 主要論点

『「コーチ」の組み合わせ自由度向上』①「多様な伴走者」の学校参画促進（大学生 TA や多様な企業人・研究者等）

学びが変容する中で、あらゆる仕事を教員が行うことは困難。子どもの個別最適な学び、探究的な学びを教員の指揮下でサポートする多様な「子どもの伴走者」を充実すべき。

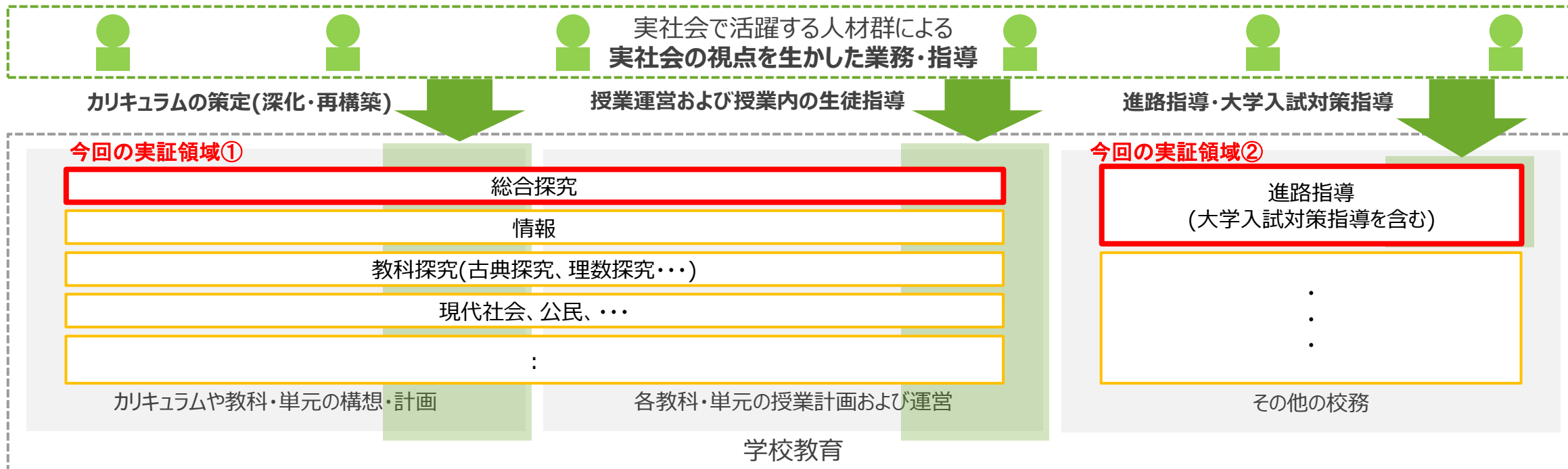
※ 加えて、主要論点のうち、『「出口の再デザイン」高校・大学の入学者選抜の多様性』に関する社会実装を担う。

※ また、本事業では教職員の業務内容・業務構造を可視化し、外部人材が担える領域を定義することで、主として解決する論点の②「多様な経歴の教員」が増える教員免許制度の実現に資する社会実装としても位置づける。

取組領域の選定理由

今回、取組領域の選定にあたっては、①中等教育において、新規の取り組みである領域、②現在学校において、1)内容（高度な社会課題の理解の必要性など）、2)対応負荷量（大量の生徒への個別対応など）の両方の視点から教員が継続的に業務を担い続けることが難しい領域であることの2点を基準として、他校において汎用的な展開が臨める領域であると判断した。また、学校教育において大学受験が依然として重要な要素であることも踏まえ、総合探究と進路指導の両面を同時追及して総合探究の成果を進学・進路につなげる道筋を見出させることによる波及効果のシナジーも見込んでいる。

社会実装のあるべき姿



最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

3. 実施体制・実証フィールド

実施体制

事業受託者：株式会社ミエタ

- 統括責任者 : 村松 知明 (代表取締役)
- 執行責任者 : 原 勇人
- 現場担当 : 金 公希
- 現場担当 : 小川 顕太郎
- コーポレート担当 : 原 勇人

再委託先：業務委託名目で参画する

- 渉外担当 : 神 裕之

監修：

- 静岡聖光学院中学校・高等学校
教頭 田中 潤 先生(全般監修)

実証フィールド

実証フィールドに関しては、現在「首都圏×進学校」で関連業務を行って踏まえ、本事業では「首都圏×特色校」「地方×特色校」「地方×進学校」「公立校」のうち2-3校を選出し実証を行う予定。(検討中)

① 【私立高】大阪国際中学校高等学校

- 所在地：大阪府守口市松下町 1-2 8 / 対象：探究学習担当の教員陣
- 特徴：2022年4月に大阪国際滝井高等学校と大阪国際大和田中学校高等学校を発展的に統合して開校。国際バカロレア認定校であり、国際バカロレア機構の学習者像に準拠している。

② 【公立校】茨城県立水海道第一高等学校

- 所在地：茨城県常総市水海道亀岡町2543 / 対象生徒：高2生約15名 高3生約25名
- 特徴：民間人校長を今年度より起用し、探究学習を基軸としてカリキュラムの全面的な改定に着手。

最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

4. 実証内容概要

	狙い	取組内容
①各教科・単元の内容の改定、授業運営および授業内の生徒指導支援（大阪国際中学・高等学校）	各教員が単元の計画や授業計画・運営を行うにあたり、「実社会との接続」「探究学習の深化」「大学入試改革」など教育改革に関わる視点から計画・運用支援を行う	探究学習に特化したカリキュラムの改定支援 <ul style="list-style-type: none"> 本校として、探究学習を通じて目指すべき方向性の整理 本校が実施してきた探究活動・課外活動の棚卸と全体整理 探究学習の理想の学習ステップについての方針策定 高1生の探究活動の具体的なプログラム実施内容について提案 2024年度における学校内製化による取り組み、外部委託による取り組みの切り分けと予算化
②進路指導および大学入試対策指導の支援（水海道第一高等学校）	高校3カ年(もしくは中高6カ年)の進路指導を体系化し、大学入試対策指導に結びつける統合的な進路学習のカリキュラム構築	進路指導フレームワークの構築 <ul style="list-style-type: none"> 高校生活にわたる進路学習の土台となるフレームワークを構築し、学校と外部事業者の役割分担の作成 進路指導および大学入試対策支援 <ul style="list-style-type: none"> 高3生向け：推薦入試出願書類作成における支援 高2生向け：推薦入試に向けて必要な心構えに関する指導 進路選択における内省を目的としたキャリアワーク実施
③外部事業者導入の共通課題に関する調査（追加）	学校現場への外部事業者導入にあたって共通の障壁となる課題について検証する	学校関係者へのヒアリング・アンケート調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> 外部事業者の導入の課題に対する仮説設計 調査手法の検討 アンケート実施前の大阪国際・水海道第一へのプレヒアリング 学校関係者へのアンケートの展開 アンケートの分析

4. 実証内容詳細 ①各教科・単元の内容の改定、授業運営および授業内の生徒指導支援（大阪国際中学・高等学校）

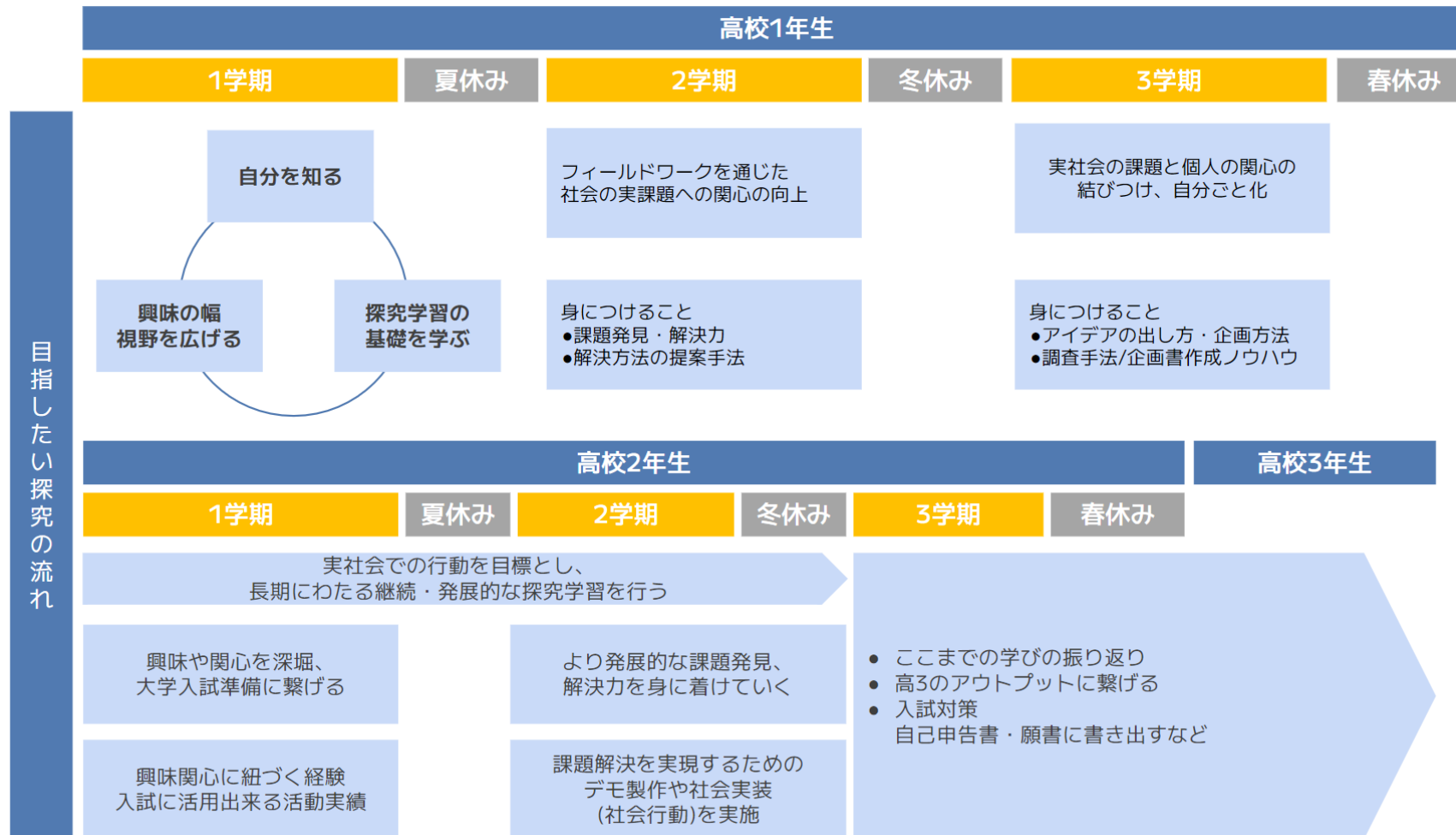
学校側が今年度取り組んでいる活動をヒアリングなどを通じて全体整理を行った。様々な教員にヒアリングをして進める中で探究学習の統括担当であっても詳細を知らなかった内容があるなど、学校内で引き継ぎ切れていない実施背景やナレッジを再共有することができた。

23年度

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
総合的な探究の時間				<ul style="list-style-type: none"> 探究基礎 地域探究 I類守口 II類吉野 	I類 副業先生/ STEAM II類 防災	進路探究
	<ul style="list-style-type: none"> VOICE 新聞学習 	・10講座からの選択講座 (PBL,ダンス,囲碁,華道, 美術,書道,マジック,カメ ラ,ロボプロ,園芸から選 択)		オホーツク学 (1学期) フェアトレード (2~3学期)		
各教科学習	<ul style="list-style-type: none"> 道徳(協同学習,新聞発表) 		<ul style="list-style-type: none"> エナジード (2年次より) 	キャリア探究 (総合探究コース)	進路探究(総合探究コース)	
課外活動	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭(VOICEの発表,コーラス,展示) 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭(演劇,コーラス) 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭(演劇,コーラス) 			
	<ul style="list-style-type: none"> Global Village 					

4. 実証内容詳細 ①各教科・単元の内容の改定、授業運営および授業内の生徒指導支援（大阪国際中学・高等学校）

本校として、探究学習を通じて目指すべき方向性の整理と本校が実施してきた探究活動・課外活動の棚卸と全体整理を実施した上で探究学習の理想の学習ステップについての方針策定を実施



4. 実証内容詳細 ②進路指導および大学入試対策指導の支援（水海道第一高等学校）

推薦入試の指導に必要な指導項目をフロー化して整理したうえで、今年度中にミエタが対応する箇所について学校側と役割分担をし、ミエタから生徒への直接指導を実施した。

ステップ	内容	サポートツール	ミエタ対応 高3 (10-11月)	ミエタ対応 高2 (12月)
1. 自己理解	内なる動機や強みを理解する	キャリアワーク・座談会		○
	探究活動の実績を整理する	キャリアワーク		○
2. 目標宣言	過ごしたい大学生活をイメージする	キャリアワーク・座談会		
	希望大学・志望学科を宣言する	キャリアワーク		
3. 行動計画	希望大学の人材要件・実績を理解する	キャリアワーク・個別フォロー		
	ポートフォリオの作成	行動計画表・ポートフォリオ		
4. 進捗確認・ 経験蓄積	計画との進捗を確認・軌道修正する	探究ノート・学習ログ		
5. 試験準備	出願資料作成	個別フォロー	○ (ベース先生)	
	面接の対策をする	座談会・個別フォロー	○	
6. 出願・面談	希望大学に出願し、面接試験を受ける			

4. 実証内容詳細 ②進路指導および大学入試対策指導の支援（水海道第一高等学校）

高2生に関しては、ミエタで独自に開発したワークシートである「キャリアワーク」を活用し、推薦入試や進路選択の土台となる内省的活動を行い、推薦入試に向けたモチベーションや、自己の強みの再発見・再確認など自己肯定感の強化を図った。

【キャリアワーク実施事例】

シート③

ゼミを受けて

🕒 10分

MIETAN

ゼミを通じて、新たに気付いた自分の新しい素質や、自分の素質に対する新しい捉え方を書きましょう。

🗨️ 自分の飽きっぽい性格は、人を飽きさせないプレゼンの作成や、いろんな視点を結び付けるなどのグループワークの上で役に立った。

・ビジコンの資料を作る上で、文章を書くことが得意だとわかった。
人と対話しながらアイデアを練ることがとても好きだとわかった。

・LPをつくる時に初めはうまく行かず大変だったけど、わかってくるととまらなくなるくらいのおもしろいことがわかった。
たまたまできるおもしろさを理解してやるのが好き

・LPをつくる時に、テンプレを使うアプリを使いたいと思ったことから、自分は人のものを使って簡単に終わらせるよりも、自分の力で時間をかけてやるのが好きだとした。

自分の素質はゼミやその他の活動でどのように活かされましたか。

🗨️ 人と話すのが好きな性格はグループワークを進める上や、率先して講師に質問したり、発表したりするうえで活かすことが出来た。

・何かし挑戦できることはビジコンに出てみることを決断するときに役立った。

・一人で行動できることが自分のやりたいこと、行きたいところを選択するのに役立った。

・人と交流したいと思う気持ちから講師の方に積極的に話しに行くことに活かされた。

4. 実証内容詳細 ③外部事業者導入の共通課題に関する調査

インタビューとアンケートの両方を通じて現場課題の立体感と課題の汎用性のバランスを取る調査設計とするとともに、課題検証すべきターゲットについても十分に整理を行い、関係者で共通の認識をすり合わせた上で調査を実施した。



調査対象

区分	現在の外部導入状況	次の外部導入ステップ	外部委託の金額目安
イノベーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ SaaSが導入され先生・生徒のやり取りがITを通じて行われている ・ 継続的かつ複数の探究プログラムを外部事業者へ委託している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・外部事業者の役割分担が概ね完了し、当該領域の企画・構成の検討を含めて外部事業者へ継続的に委託することを検討している 	500万円～2,000万円
アーリーアダプター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無償もしくは僅少金額のITサービスを部分的に使用している ・ 補助金なども活用しつつ年1度程度の探究プログラムを特定の学年に導入している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年に対して一貫性や連続性を持った形で探究プログラムや進路指導の外部委託を検討している 	100万円～500万円
アーリーマジョリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験的にIT備品を購入している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少額の探究プログラムの試験的实施を検討している 	iPadなど、機器・備品のみ
レイトマジョリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討しているが、特に実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他校の導入状況のリサーチ 	ほとんどなし
ラガード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画無し 	ほとんどなし

最終報告書目次

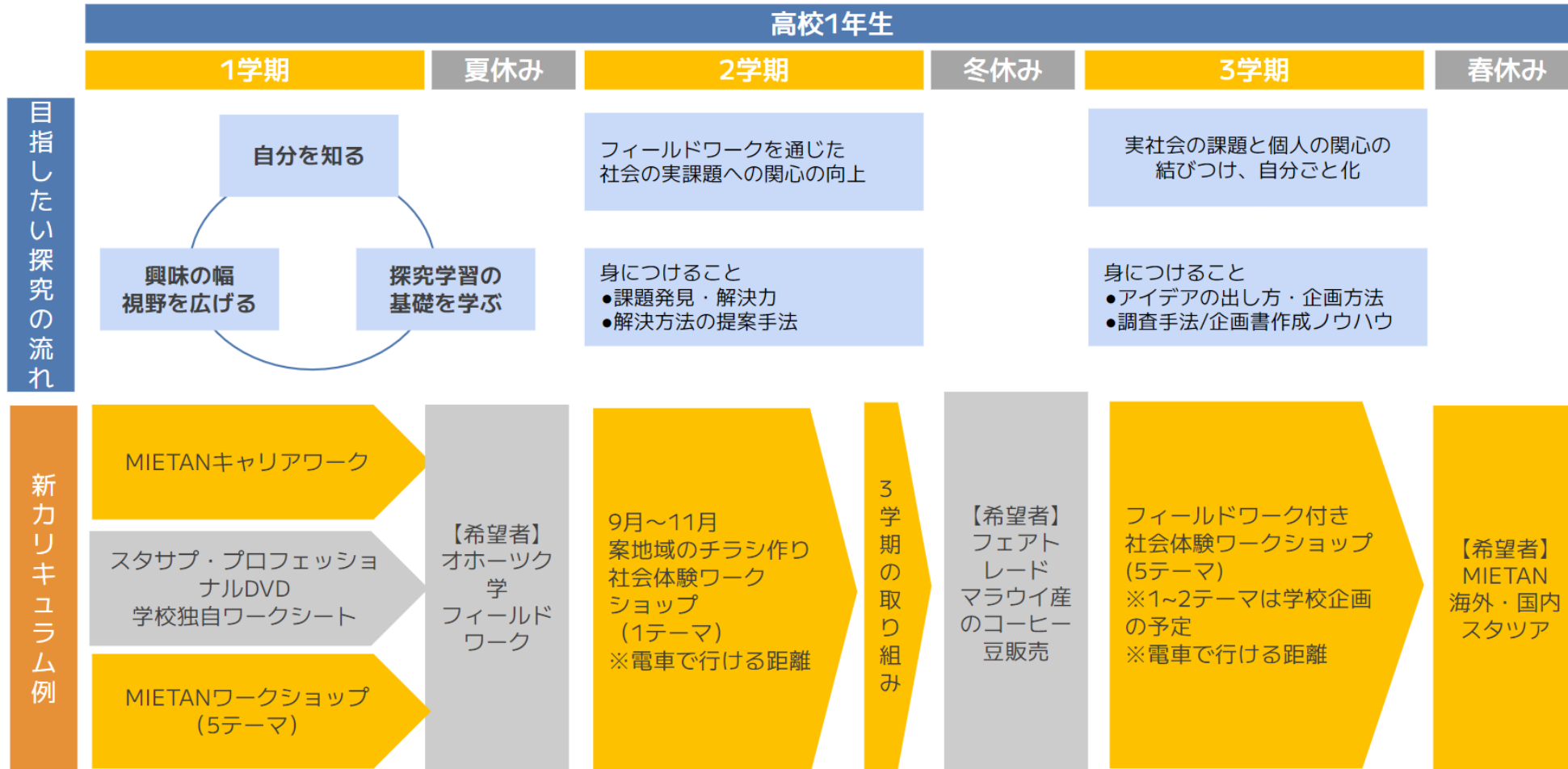
1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

4. 実証結果概要

	結果
①各教科・単元の内容の改定、授業運営および授業内の生徒指導支援（大阪国際中学・高等学校）	<ul style="list-style-type: none">・ 教員陣からは、第3者がカリキュラムの構想のディスカッションに入ることにより、自身の得意分野や実施した延長線上で提言しがちだった状況が変わり、全体として統制の取れた議論ができたことで構想化がスムーズに進んだとフィードバックがあった。・ 上述の成果もあって本事業で学校で内製化する探究学習プログラムとミエタで実装する探究学習プログラムの役割分担と効果的な連携イメージが明確になったことに加えて、探究的な学び支援金支援補助金でミエタが実施した探究プログラムでの効果に対する学校側の実感値との相乗効果により、来年度の外部事業者を活用した複数プログラムの有償導入について、ほぼ合意を得ることができた
②進路指導および大学入試対策指導の支援（水海道第一高等学校）	<ul style="list-style-type: none">・ 高3生については、受験中であり、繊細な状況のためアンケートの取得を意図的に控えたが、教員からのフィードバックとして来年度も推薦入試の志望理由書の作成で支援して欲しいとのフィードバックがあり、ニーズの存在については一定の検証が進んだと考えられる。・ 高2生についてはアンケートの結果、自分のことを見つめなおす良い結果になったというフィードバックがあり、教員の負担の削減のみならず、生徒自身の新たな長所の発掘、興味関心のあり方の言語化、自己肯定感の向上に一定の効果があったと認められる。・ 本取り組みについては学校側からも継続依頼の意向表明を受けており、2024年度の有償実施について学校側と現在議論を進めている。
③外部事業者導入の共通課題に関する調査	<ul style="list-style-type: none">・ 共通の課題として、①外部事業者導入自体にかかる工数の不透明感、②外部事業者の導入の費用対効果や成果の定義の難しさ、③細かな現場実務も含めた学校と外部事業者間の役割分担の線引きの難しさ、の3点に大きな課題感があることが判明した。・ 今後、外部事業者の導入を進めていくにあたっての対応として、①外部事業者導入におけるフローやポイントのまとめと発信、②成功事例の情報の積み上げと導入の成功事例の発信、③業務要件定義を中心とした事業者との交渉業務の研修、などの方向性を得ることができた

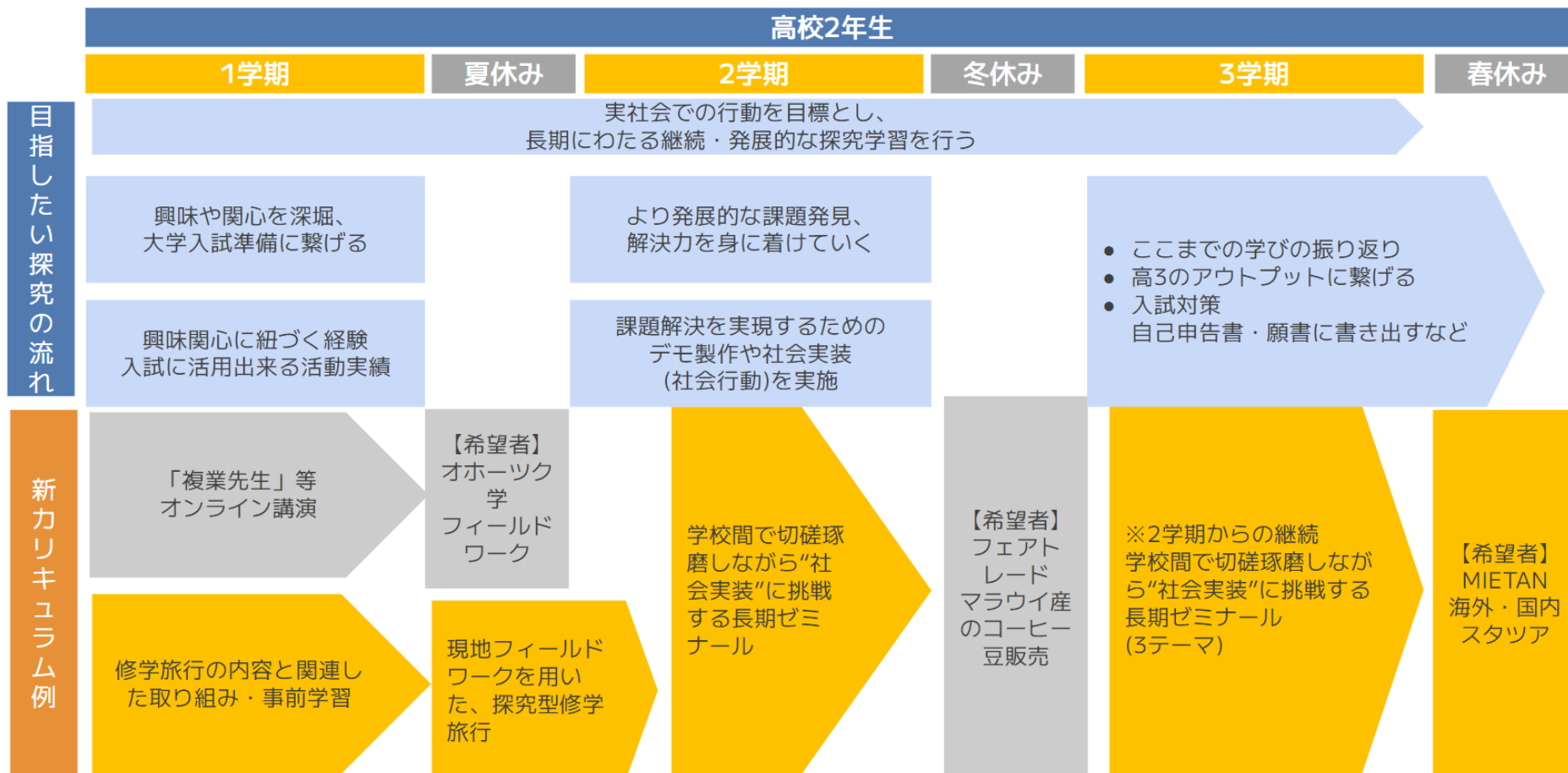
5. 実証結果詳細①各教科・単元の内容の改定、授業運営および授業内の生徒指導支援（大阪国際中学・高等学校）

高1生の2024年度からの具体的な探究プログラムの構築について学校と協議の上で具体化し、複数プログラムについて、外部事業者の有償導入（オレンジ箇所）について概ね合意を得ることができた。



5. 実証結果詳細①各教科・単元の内容の改定、授業運営および授業内の生徒指導支援（大阪国際中学・高等学校）

高2生については2024年度は具体的なプログラム導入の対象外ではあるものの、2024年度高1生が2025年に高2生になり、従来よりも高度な探究学習を実施できるイメージを構築することにより、より段階的・発展的で長期の視野になったカリキュラムを構築できた。



5. 実証結果詳細②進路指導および大学入試対策指導の支援（水海道第一高等学校）

具体的なサービスの提供とその後の教員との対話を通じて、推薦入試における現場のリアルな課題感を捉えることができた。それに対する具体的な解決策としてツールやサービスの在り方を検討し、次年度の有償実施に向けた提案とした。

学校の課題感	ディスカッション内容	プログラムへの落とし込み
探究と推薦入試をどのように結びつけるか？	探究学習の中での取り組み、これまでの取り組みを一人称のストーリーで結び、ある程度文章に落とし込んで ポートフォリオ作成の土台とする	探究学習の振り返り学習・今後の自己に結び付けるキャリアワーク
高3生中期の「総合型選抜に流れるような底抜け」を無くしたい	進学校において一般入試を捨てるというのは大きな選択であることを意識しつつ、 高3に入ってから推薦の選択肢を残し続けない 、といった点が必要では。 高2のうちに仕上がるのであれば推薦、そうでなければ切る 、そういった土台を作っていく	自己理解・進路検討のキャリアワークショップの展開
推薦、一般どっちつかずになってしまふと教員が疲弊する 実情として、指導教員の質の確保は実際難しいので、一般でという方向性にならざるを得ない面もある	上記の線引きに加えて、ミエタをはじめとした外部への切りわけも選択肢の一つ	自己理解・進路検討のキャリアワークショップの展開
3年になってからのどのように実質的な推薦指導を行うか	アドミッションポリシーを読みこんだうえで、自身のどいういった要素を学校学部ごとに見せていくか 、ポートフォリオを完成させていくかについて、チェックシートを用いながら指導	（主に集団個別指導の形で）論文指導、研究室訪問の指導、ポートフォリオの弱さを補うコンテスト提示や国際性についての見せ方の検討などを行う

5. 実証結果詳細②進路指導および大学入試対策指導の支援（水海道第一高等学校）

高3生は引き続き受験中のためアンケートは意図的に実施しない判断をしたため本件は高2生に対するアンケート結果であるが、キャリアワークを中心とした内省ワークが、自己を見つめなおすものとしてポジティブな効果があったことが認められた。

【高2生向けアンケートの結果】

概要	詳細
自己理解の必要性	自分の今までの経験や、性格などについて考えたことで 自分が興味があることやこれから何をしたいと思っているのか、より明確にすることができた。
	自分の現状や思っていること、考えていることを紙に書いて見える化することで、 自分のことを見直すきっかけができました。
	長所を聞かれた時にすぐに答えることができなかったのですが、 このキャリアワークを通して、何個か長所を見つけられました。
入試に向けたマインドセット	ポートレートのため2年のうちに色々やっておくところが 大切だったということがわかった。

5. 実証結果詳細②進路指導および大学入試対策指導の支援（水海道第一高等学校）

キャリアワークに対してポジティブなフィードバックがあったことに加え、ミエタとして別途本校に導入いただいている探究プログラムとの関連で、探究学習と推薦入試を戦略的に結び付けていくことのみならず、探究学習にとどまらないさらなる発展への関心意向を捉えることができた。

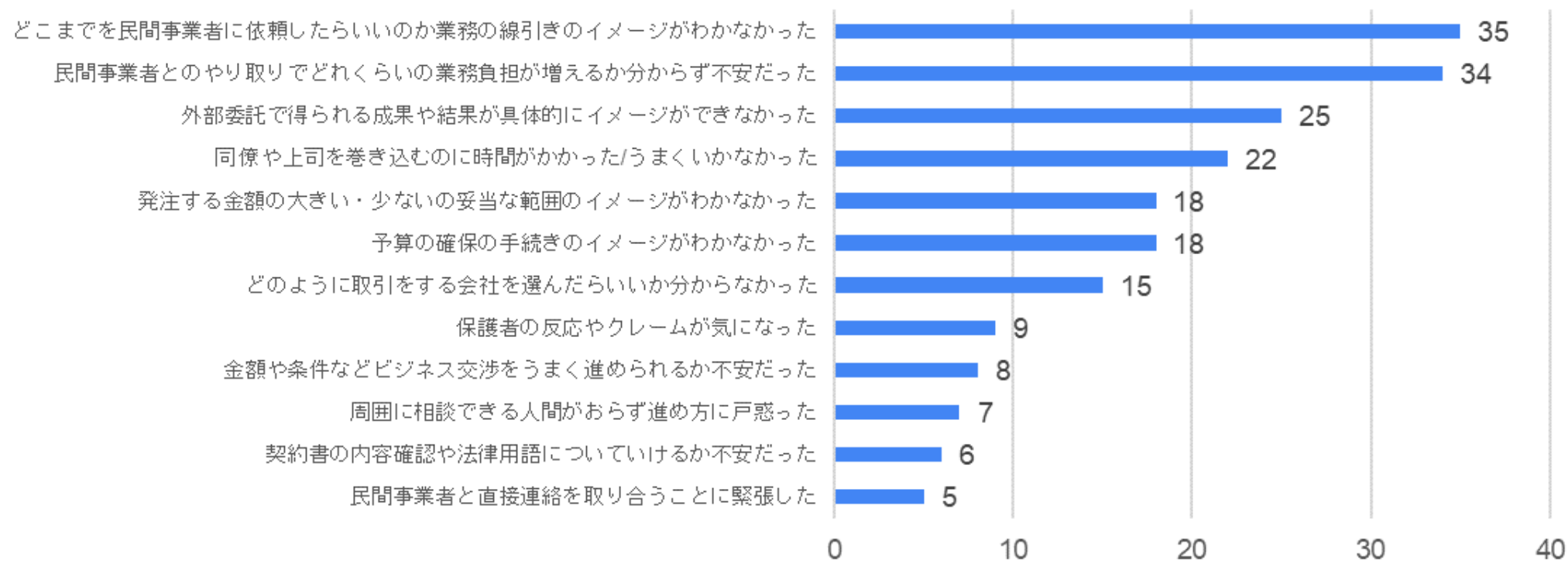
【教員生向けアンケートの結果】

概要	詳細
キャリアワークショップについて	<p>自分の武器・魅力などを整理する良い機会になったはず。 もっと自分を磨くにはどんな方法があるか等について少し考えられたと思う。 他の参加者の発表をきくことで、自分のことを整理することにもなったと思う。 また、他の参加者の自分とは違ったところを知ることも自分探しに役立つと思えた。</p>
	<p>自分自身の棚卸を探究活動にからめたものだけでなく、広く行えるプログラムがあるといい。 それを志望理由書完成まで目的にしたものであればなおさら良い。 （棚卸プログラムはA社、志望理由書作成はB社だとひと手間増えるので）</p>
学校の探究学習の カリキュラムについて	<p>探究学習の拡大という観点からも、現在高1・2で行っている「広げる」探究だけでなく、さらに深度を深めた「上げる」探究が必要だと考えている中で、キャリア指導や座談会による生徒自身の見つけなおしのワークを行えたことは価値があった</p>
その他	<p>ミエタをはじめとした外部事業者による学校の探究学習や推薦指導が、何かを行いたい生徒さんの背中を大人が押す際のサンプルとなるのが望ましい</p>

5. 実証結果詳細③外部事業者導入の共通課題に関する調査

実際に実務に取り掛かる前に担当者を不安にさせる要素としては、①外部事業者との役割分担、②業務負担増の不透明さ
③成果イメージの不透明さ、④仲間づくりの不安、が大きな要因として挙げられる。

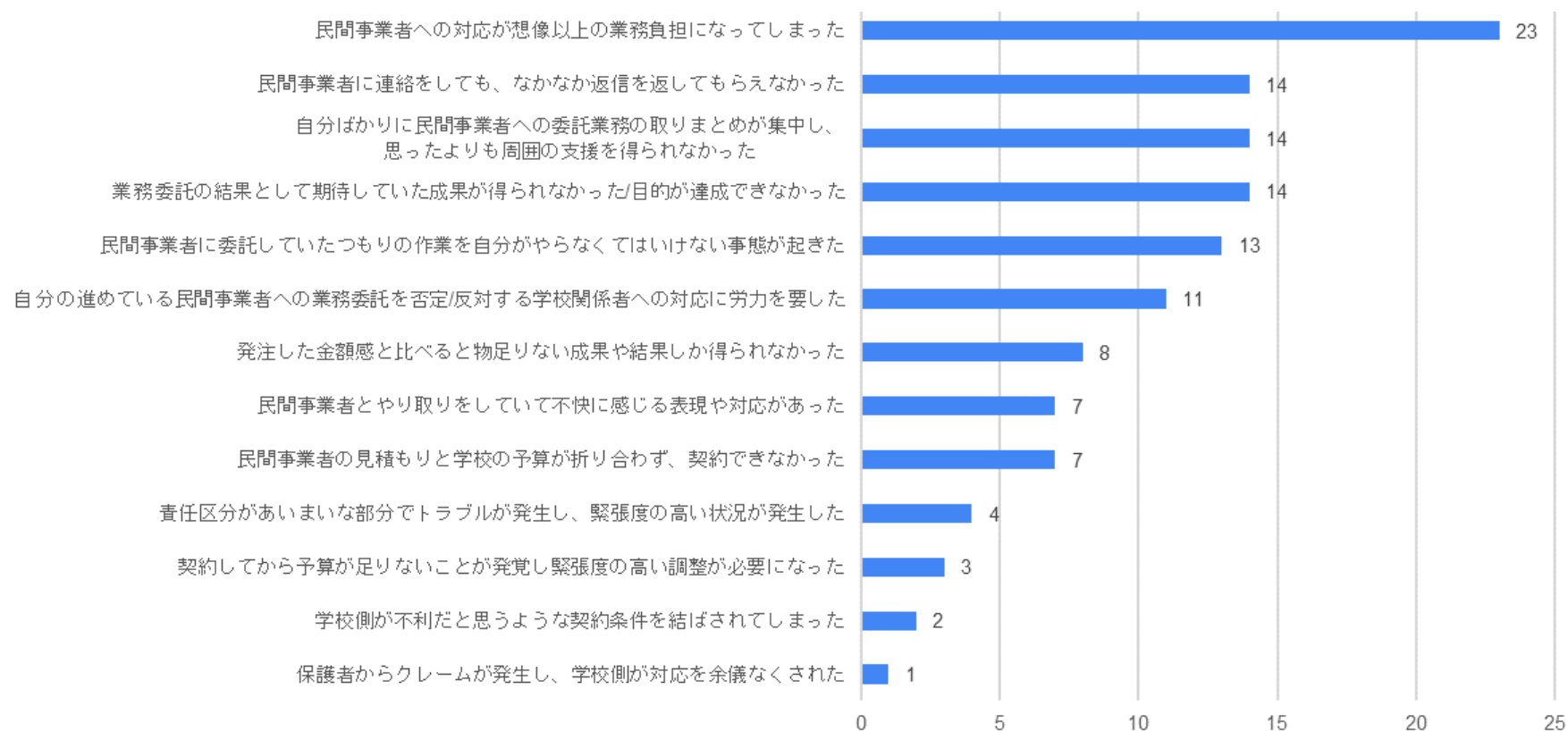
質問：外部委託の担当として着任した最初の時点で不安だった、悩んだこととして近い項目にすべてチェックを入れてください。



5. 実証結果詳細③外部事業者導入の共通課題に関する調査

実際に実務取り掛かった後に問題になった要素としては、①事業者への対応業務の負担過大、②民間事業者の対応の悪さ
③周囲の非協力的な姿勢、④不十分な業務成果、が大きな要因として挙げられる。

質問：民間事業者への実際の業務委託を通じる中で、困ったこと、悩んだこととして近い項目にすべてチェックを入れてください。



5. 実証結果詳細③外部事業者導入の共通課題に関する調査

実務に取り組む前に感じた悩み、実務に取り組んだ後に発生した問題点の両方を勘案した結果、以下の通り外部事業者導入の主要課題を4点に整理した。

(カッコ内は回答数/回答率)

1

外部事業者導入のプロセスと工数の不透明さによる心理的負担感

着任当時の質問：民間事業者とのやり取りでどれくらいの業務負担が増えるか分からず不安だった(34/48%)
実務着手後の質問：民間事業者への対応が想像以上の業務負担になってしまった(23/32%)

2

業務要件設計と役割分担の不明確さ（学校側・事業者側両者の課題）

着任当時の質問：どこまでを民間事業者に依頼したらいいのか業務の線引きのイメージがわからなかった(35/49%)
実務着手後の質問：民間事業者に委託していたつもりの作業を自分がやらなくてはいけない事態が起きた(13/18%)

3

教育特有の明確な成果イメージ形成とゴール設定における難しさ

着任当時の質問：外部委託で得られる成果や結果が具体的にイメージができなかった(25/35%)
実務着手後の質問：業務委託の結果として期待していた成果が得られなかった/目的が達成できなかった(14/20%)

4

学校内部における周囲の巻き込みと支援獲得の難しさ

着任当時の質問：同僚や上司を巻き込むのに時間がかかった/うまくいかなかった(22/31%)
実務着手後の質問：自分ばかりに民間事業者への委託業務の取りまとめが集中し、思ったよりも周囲の支援を得られなかった(14/20%)

最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

6. 今後の自走・普及プラン

	マネタイズ方針	事業拡大方針
①各教科・単元の内容の改定、授業運営および授業内の生徒指導支援（大阪国際中学・高等学校）	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム策定業務に関しては、提案実務の人件費見合いに適切な利益率を上乗せして請求する形でビジネス化を図る また、カリキュラム策定により外部導入できるサービスが判明し、後工程でもマネタイズが可能なため、本サービス自体と随伴取引の両方でマネタイズを図っていく 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間にわたるカリキュラム全体像を策定する場合には、営業的スキルとコンサルティングスキルの双方が求められることに留意し、双方スキルを持つ従業員を育成する一方、各単元の改定に関してはコンテンツ制作スキルとして独立させ、計画できる外部人員を増やす予定であり2024年度中にテスト実施と一部の実装を目指す。また、長期的にはカリキュラム全体像のモデルを作ったうえで、そのフレームを活用して全体の流れを作りこむことで、拡張性を持たせることを予定しており、2025年から運用を目指していく。
②進路指導および大学入試対策指導の支援（水海道第一高等学校）	<ul style="list-style-type: none"> 推薦入試を選択しない生徒も多数いる観点から、推薦入試指導の本校における継続については受講する生徒の受益者負担もしくは、定期的に時間を枠で提供し、生徒が予約するサポーター派遣で進めることで学校側が検討している。 キャリアワークなど、進学に限らない進路指導については汎用的に生徒のニーズがあるため、全学年対象のプログラムとして効率的に実施して課金する方向で展開を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 推薦入試指導は、一定程度生徒との個別対応が必要となり、現行の従業員による事業拡大にはリソースとして限界があることから、ミエタのアレンジによるコーディネータープールの構築や、ミエタ公認コーディネーター制度などのトレーニングプログラムの実装により、対応できる校数・生徒数を増やしていく予定。2024年度から従業員と外部人材の併用をスタートさせ、外部人材に委託できる範囲を検証していく。2025年度からは、外部人材が自律的に案件運用できることを目指し、コーディネーター人材のプール化と公認コーディネーター制度の運用を試験的に開始していく。
③外部事業者導入の共通課題に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> 対象外 	<ul style="list-style-type: none"> 対象外

最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン